

経営バイタル
の強化書 KEIEI VITAL

SDGsの理解と
具体的な取組方法

SDGsに取組もう！



政府は昨年12月に「SDGsアクションプラン2021」を今年6月に「SDGsに関する自発的国家レビュー(VNR)」を公表し、新型コロナウイルス感染症の拡大を越えて、「よりよい回復」に向けて取組むため、日本がどのようにSDGs推進に取組んできたかを振り返り、SDGs達成に向けた進捗を確認しました。SDGsとは何か、SDGsを企業経営にどう落とし込むか、SDGs導入のためのメソッドであるSDGコンパス(SDGsの企業行動指針)の概要と具体的な取組方法を解説します。

17の目標とそれらを達成するための具体的な169のターゲット。

1 SDGsとは

SDGs(Sustainable Development Goals)は、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標で、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています【図1】。

SDGsには、〈普遍性〉先進国を含め全ての国が行動する、〈包摂性〉人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」、〈参画型〉全てのステークホルダー(政府、企業、NGO、有識者等)が役割を、〈統合性〉社会・経済・環境は不可分であり統合的に取り組む、〈透明性〉モニタリング指標を定め定期的にフォローアップという5つの特徴があり、発展途上国向けの開発目標として2015年を期限とした8つの目標(①貧困・飢餓、②初等教育、③女性、④乳幼児、⑤妊産婦、⑥疾病、⑦環境、⑧連帯)を設定したミレニアム開発目標(Millennium Development Goals:MDGs)を元に定められています。

この17目標それぞれに平均10個ずつくらいのターゲットが存在し、合計で169個あるので169のターゲットと言われています。一例として「1. 貧困をなくそう」を見てみましょう。

- 1.1 2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。
- 1.2 2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる。
- 1.3 各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度および対策を実施し、2030年までに貧困層および脆弱層に対し十分な保護を達成する。

中身を見てみると1.2の最後に書いてある「～半減させる」という具体的な目標もあれば、1.3「～十分な保護を達成する」という漠然としたものも含まれています。そのため、169のターゲットのさらなる詳細版である具体的な数値目標が書かれた232の指標を策定することになりました。SDGsを理解するとき、17の目標、169のターゲット、さらにその下に232の指標がある、3階建ての建物だと考えると分かりやすいかもしれません。

【図1】SDGsの17の目標※1



2 政府の取組

政府は、2016年5月に総理を本部長、官房長官・外務大臣を副本部長、全閣僚を構成員とするSDGs推進本部を設置し、同年12月にSDGs実施指針を策定、2017年6月にジャパンSDGsアワードを創設し、同年12月にSDGsアクションプラン2018を決定、2020年12月にアクションプラン2021※2を決定し、今年6月に自発的国家レビュー(VNR)を決定し、SDGs実施に取組んでいます。また、自治体によるSDGsの達成に向けた取組を公募し、優れた取組を提案する都市を「SDGs未来都市」として選定し、先導的取組を行う都市を「SDGs自治体モデル事業」に選定し、資金的に支援しており、成功事例の普及展開等を通じ、自治体におけるSDGsの達成に向けた取組の拡大を目指しています(都道府県及び市区町村におけるSDGsの達成に向けた取組割合:2024年度目標60%)。

SDGsアクションプランは、2030年までに目標を達成するため、政府が行う具体的な施策やその予算額を整理し、各事業の実施によるSDGsへの貢献を「見える化」することを目的としており、SDGs推進円卓会議を始めとするステークホルダーの意見を踏まえて、取組の総額や担当省庁、対象とする目標

などを明記する等発展してきています。2020年12月に決定された、「SDGsアクションプラン2021」では、新型コロナウイルス感染症の拡大で、SDGs達成に向けた取組みの遅れが深刻に懸念されていることを踏まえた上で、「SDGsが達成された、しなやかで強靱な、経済と環境の好循環のあるウィズ・コロナ、ポスト・コロナの時代を実現するには、社会全体の行動変容が必要であり、あらゆる関係者が一体となって取組んでいく必要がある」との考えの下、以下の4つを重点事項と掲げ、取組みを加速化していくこととしました。

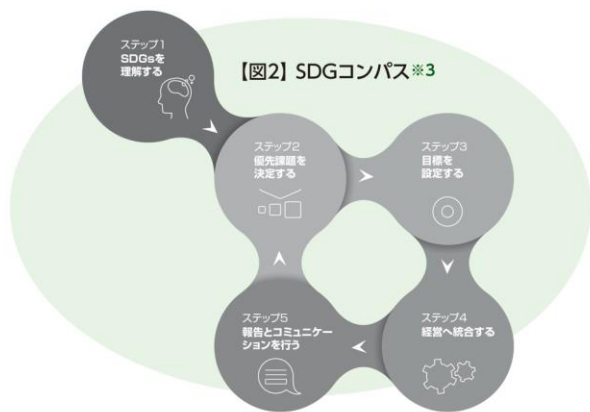
- ① 感染症対策と次なる危機への備え
- ② よりよい復興に向けたビジネスとイノベーションを通じた成長戦略
- ③ SDGsを原動力とした地方創生、経済と環境の好循環の創出
- ④ 一人ひとりの可能性の発揮と絆の強化を通じた行動の加速

また、具体的な施策として、新型コロナウイルス感染症の治療・ワクチン・診断の開発・製造・普及の包括的な支援及びこれらへの公平なアクセスの確保、UHCの推進、デジタルトランスフォーメーションの推進、ESG投資の推進、「2050カーボンニュートラル」への挑戦、海洋プラスチックごみ対策、SDGsを原動力とした地方創生、持続可能な開発のための教育(ESD)の推進等を盛り込み、新型コロナウイルス感染症対策の支援を含むSDGsアクションプランの総額は前年(約1.7兆円)の4倍近い約6.5兆円にのぼり、政府一丸となってSDGsを勘案しながら様々な施策に取組んできている姿を示すものとなっています。

3 SDGsの導入方法

SDGsの目標を達成するためには、上述の政府や自治体の取組みだけでなく経済や雇用、環境に密接に関わる企業の協力が欠かせませんが、いざSDGsを導入しようとしても、企業経営にどう落とし込めばいいのかわからない場合が多くあります。具体的にSDGsに取組むための方法としてSDGコンパス(SDGsの企業行動指針)がありますので、以下でSDGコンパスについて説明していきます。

SDGコンパスは国際的なNGOのGRI、国連グローバル・コンパクト、国際企業で構成される組織WBCSDの3者で作成し、GCNJ(グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン)とIGES(公益財団法人地球環境戦略研究機関)が日本語に翻訳しました。SDGsを具体的に導入する5つのステップは、①SDGsを理解する、②優先課題を決定する、③目標を設定する、④経営へ統合する、⑤報告とコミュニケーションを行うとなっています【図2】。



SDGsには17の大きな目標と169の多くのターゲットがあり、どの目標・ターゲットが自社に関係するのか、自社に關係する目標・ターゲットと優先課題をどのように決めるか(ステップ②、ステップ③)が特に重要となりますので、この点について下記で解説します。

ステップ② 優先課題を決定する

世界が抱える社会課題は複雑につながっているため、一企業がその全てを担えるわけではありません。そのためSDGコンパスでは、バリューチェーン全体で社会課題にアプローチすることが求められています。バリューチェーンで業界・社会と自社の関係を俯瞰して見ると、自社活動が負の影響を与えているさまざまな社会課題に気づくことができます。バリューチェーンとは、ハーバードビジネススクール教授のマイケル・ポーターが著書「競争優位の戦略」で提唱した、事業戦略の課題や競争優位性を探るためのフレームワークで、事業活動を機能に分けて、付加価値の発生源を探ったり、競合上の強みと弱みが分析できることを意味します。

まず、自社が生産する商品の原材料の調達から、生産、販売、使用、廃棄など、バリューチェーン全体を俯瞰できるように図式化し、各活動段階で関わる企業や団体を特定します。次に、各活動段階で発生する正と負の課題を洗い出します。この図式化をバリューチェーンマッピングと呼びます^{※3}。バリューチェーンマッピングで明確になったSDGsのターゲット群をもとに、ステップ③の目標設定を行っていきます。例えば、製紙会社は、紙を作るために木材チップや古紙に薬品を加えて溶かし繊維分を抽出します。紙を作るためには、原材料の調達の段階でどうしても木を伐採しなければならないので、森林の減少とそれに伴う地球温暖化を含むSDGs上のリスクが考えられます。このリスクに対する防止策や改善策として、目標15「森林の持続可能な管理」や目標13「気候変動への具体的な対策」に貢献できるような、植林に取組んだり適切な調達に努めます。優先課題を決定することで、既存事業の改善点や新規事業として取組むべき課題が明確になります。

ステップ③ 目標を設定する

ステップ②で特定したいいくつかの優先課題をもとに目標を設定します。目標は、トリプルボトムライン(経済・環境・社会の3分野)を網羅する内容が望ましいとされています。目標設定では、ベースラインの設定とその進捗度を測定するKPIを設定します。ベースラインとして、特定の地点や期間を設定します。例えば、特定の地点:2015年末と比較して2025年末に〇〇の数値を〇%減少させる、特定の期間:2023年から2025年の3年間の〇〇の数値を、2013年から2015年の3年間と比べて〇〇%増加させるなどです。KPIとは、主要業績評価指標のことで、目標達成に向けた進捗度を計るための指標として機能します。KPIを設定することで、目標の期限や進捗状況の測定が可能になります。1つの目標に対していくつかのKPIを設定することが望ましいとされています。ステップ②と同様に製紙会社が掲げるKPIとしては「パルプを製造するなど事業活動に伴って排出される温室効果ガスを2015年から2020年までに25%削減する」などが考えられます。中長期的に達成を目指す目標にKPIを設定しておけば、自社のSDGsへの取組みの状況をステークホルダーに対して発信できます。

②優先課題を決定し、③目標を設定した後これを④経営へ統合し、⑤報告とコミュニケーションを行うことで自社の経営にSDGsを取込むことができるようになります。

※1 「持続可能な開発のための2030アジェンダ(PDF)」(URL:https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000270935.pdf)
 ※2 「SDGsアクションプラン2021(PDF)」(URL:https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_Action_Plan_2021.pdf)
 ※3 「SDG Compass(PDF)」(URL:https://sdgcompass.org/wp-content/uploads/2016/04/SDG_Compass_Japanese.pdf)